

YCU 第2クォータープログラムプログラム 派遣学生報告書

氏名	M.K	学部・学科	国際商学部
学年	2年	派遣国	フランス
派遣大学	Institut de Touraine		
プログラム名	Intensive French Course		
期間	2023年 6月 17日～ 2023年 7月 16日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は5～10人程度の人数で少人数のクラスでした。クラスのメンバーは毎週変わり、アメリカ人が大半を占め、日本人・アラブ人・他のヨーロッパ圏の人々と共に勉強をしました。1週間に21時間の授業があります。月曜日・水曜日・金曜日は午前授業のみでした。主に文法の授業で、日本と同じくテキストを使用し、音読や問題を解くことなどしました。また、日本の文化について学校のパソコンを使い調べあげ、プレゼンテーションを行いました。プレゼンをする中で一番衝撃を受けたことは「大谷翔平」を存じない人がいたということです。フランスで盛んなスポーツといえば柔道などで、野球は全く行わないということがとても印象に残りました。他には、リスニングの演習として、「伝言ゲーム」を行ないましたが、国籍・年齢の違いもあり全く通じませんでした。午前の授業では、主にフランス語を学ことができました。

火曜日・木曜日は午後16時まで行われました。午前中は他の曜日と同じ内容ですが、午後からは課外活動中心の授業でした。フランスのトゥールという街は、日本でいう京都のような場所でした。昔の首都で多くの城があり、博物館・美術館がありました。美術館に行き、感想を書いたり、市内の名所を地図のみで歩いたりなどしました。また、フランスの地理について学び、フランスで1番長いと言われているロワール川の側を散策するなどもしました。課外活動では、フランスの歴史・地理について学ぶことができましたが、同じくアメリカの文化にも触れることができました。アメリカ人のレディーファーストの精神が兎にも角にも印象的でした。例えば、「ドアを全員が通るまで押さえて開ける」などです。日本では場合にもよるのですが、後ろの人にバトンパスをするような形でドアの出入りをしていると思います。授業を通してフランスだけでなく他国の文化に触れ合うことができました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

フランス語の文法、主に直接法半過去・直接法未来形の演習をしました。用法は日本で習っていましたが、日常生活で使用する様々な単語を学びました。また、フランスのの地理や地方の特産品などを習い、フランス料理の名称とどの地域発祥の料理なのかを学びました。学校の先生方は「Guinguette」というロワール川沿いにあるラングエッジカフェへ行くことを勧めていました。そこには学校の生徒のほか、他大学の学生や国籍の違う人々が集まっており、いろいろな言語を使用して会話をしました。言語のアウトプットをするのはとても良い場所でした。

また、「レストランでの注文の仕方」や「誰かと出かける際の約束の仕方」を学びました。私が渡航して 1 週間後に習った内容でしたが、その日からパン屋やレストランの注文や、友達をご飯に誘ったり、休日に外出したりする約束がスムーズになりました。授業を通して語学だけでなく、フランスでのマナーや振る舞い方を学ぶことができました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

長期留学へいきたいと強く思いました。授業を受ける以前に空港内で私の語学力の無さに気付かされました。日本でもトレーニングをすることができるのですが、留学では話す機会が多くその分上達できると思います。

授業では多くの留学生に助けられました。わからない単語やこれからすることなどが、はじめの 1 週間は特に理解できていませんでした。そんな時に隣の席に座っていた人が理解するまで教えてくれました。日本語支援のボランティアなどで日本にいる留学生とコミュニケーションをとり、自分がしてもらったように手助けしたいと思います。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の渡航では様々な国の人々の生き方・考え方を学ぶことができました。例えば、フランスでは電動キックボードをすでに路上で使用している人が多くいました。日本ではこれから実用化されていくことと思います。その際の法の改正や問題に対する考え方を海外と比較し、自分たちはどうすべきなのかを考えたいと思います。また、なぜそのようにしたのかを文化的・歴史的な背景を考慮して理解していきたいと思います。